

# 田中家通信



## 株式会社 田中家石材

VOL. 45  
発行 株式会社 田中家石材  
住所 彦根市高宮町1-0-1  
電話 0749(0)5888  
HP: <https://www.tanakaya-sekizai.com/>  
Mail: [info@tanakaya-sekizai.com](mailto:info@tanakaya-sekizai.com)

### あけまして おめでとう ございます

「正月」の「正」には「初め」改まるの意味があり、新年を迎えた「初めの月」を表しています。「元旦」とは一年で最初の日の朝のことをいいます。一月三日までを「三が日」、七日までを「松の内」十五日までを「小正月」といいます。



の年四回、子孫の元に戻り繁栄を見守ってくれる」と信じていました。「お正月・お盆・春彼岸・秋彼岸」は仏様、つまりご先祖の日でもあります。「お墓を建立する時期」をよく尋ねられますが、年忌までを含めて、できれば、この四回の日を迎える前までが良いでしょう。

## 息子の友



三十年近く前に二十歳の息子さんを亡くされたご夫婦が、命日にお墓参りに行くと、必ずどなたかがお花を供えてくださっています。ご夫婦は何年も前から承知しながらも、その方にお会いできずにおられました。今年、お寺の住職が偶然にもお墓にお花を手向けておられる人を見かけられ、ご夫婦に「お墓

にお客さんですよ。」と伝えられました。行ってみると、その方は息子さんの高校時代の同級生でした。「長年、この日はお墓参りを優先している」とのこと、免許証の無い頃は母親の車でお参りされていたと聞き、お墓の前で息子さんに「いいお友達がいたね。」と声をかけてあげたそうです。手を合わす場所があるということは家族だけでなく、故人に関わった人たちにとっても掛け替えのないことだと思います。

## 高校生の 気配り



新聞の投稿で七十才過ぎの方が友達とレストランで食事をされていた時のこと。隣の席で男子高校生四人が談笑しながら食事をしていました。ランチを終え、帰って行った後のテーブルを見て驚かれました。お皿や小鉢をきれいに重ねて、

通路側に並べて帰って行ったそうです。店員さんが片付けやすいようにとの配慮ですね。食べた後、そのまま帰る人が多い中「今時の若い人は…」と言えないなと思われました。そして、この高校生たちの家庭の様子が目に見え、ごういいう人たちが世の中に見えるといういなあ」と願われたそうです。本当にそういう世の中になってほしいですね。

## 最愛の人失い 生で方変えた



最近、知り合いの訃報に接することが多い。先日も一時退院していた親友が息を引き取ったとの連絡が入った。私も昨年、妻を亡くした。日常を取り戻そうと商売を続け、社会や友人との接触を続けているが、一人になると悲しみがこみ上げてくる。

妻を亡くしたひとの手記を読んだり、話を聞いたりしてきた。その中で「あなたが幸せになることが最大の供養です」という言葉が残った。楽しいことをたくさん経験し、この世を去る時にはそれを土産話として持って行き、妻と談笑したい」という話にも感銘を受けた。親友の奥様に今かける言葉はないが、そうした気持ちになれる日が来ることを切に願う。  
(新聞の投稿より)

## 新しい年に向けて 「真実」と向き合う

昨年テレビや新聞、SNSを通じてさまざまな情報に触れた一年でした。振り返れば、明るいニュースだけでなく、不安や疑念を抱かせる話題も少なくありませんでした。私たちはどの情報を信じ、どのように受け止めるべきかを考え続けてきたのではないのでしょうか。仏教には「正見」という教えがあります。これは、物事を正しく見極める教えを指し、新しい年を迎える私たちに重要な示唆を与えてくれます。



### お墓じまいに ついで

お墓を撤去される方が増えています。「墓じまい」にもいろいろな理由があります。新しくお墓を建てるので古いお墓を撤去して、現在お住まいの近くにお墓を新しく建てられる場合、跡継ぎがないので撤去される場合です。

さまざまな事情で跡を継ぐことができない中でも、「ご縁のあった御先祖をお祀りしたい」と「お墓じまい」をせずに御先祖のお墓を大切にされるご家族。



### 感謝と言霊

日々生活をしていると「不足」を感じる事が良くあります。しかし、よく考えてみると自分のまわりには揃っていることがたくさんあることに気づきます。「帰る家がある」、「ご飯が食べられる」、「お風呂に入れる」、「着る服がある」、「暖かい布団で寝られる」、当たり前のようになことが実は当たり前ではなく、「有り難い」ことばかりである。「有り難い」とは「ある事が難



しいこと」という意味で、そこから「ありがたう」という言葉が生まれたと云われています。全てのことに「感謝」をしてそれを伝えることで「言霊」となり「不足」を「感謝」に変えていき身の回りにおける幸せを見つけていただきたいと思います。

また、「慈悲」の心を忘れずに情報と向き合いたいものです。他者を思いやり、情報が誰かを傷つけたり分断を生んだりしないよう配慮することが、より良い社会を築く基盤となります。昨年を振り返り、学んだことを胸に、新しい年も冷静で温かな心をもって情報と向き合いたしましょう。その先に、より豊かで実りある日々が待っているはず



また、「私たちが生きている間は伴侶に対して手を合わせた」とお墓を建てられるご家族もおられます。価値観はみなさんそれぞれ違いますが、故人を想う気持ち代「依り代」の役目があります。お墓にお参りをして手を合わすことで「依り代」に降りて来られた御先祖や故人と気持ちを交わすことができるのだと思います。

遠くのものに幸せを求めんじやなくて  
あなたのすぐ近くにある  
いっぱい幸せに気付いてください

